

## 事例 11

### タイトル：字が書けないことや段取りが組めずに次へ進めないと訴える

#### Aさんとの取り組み

##### ・ <事例の状況>

当初から失行、失認等の症状もあり、活動の行いづらさはあっても、Aさんは「できなくて元々だ。」とチャレンジすることが多く、話し合いながら活動を進めてきた。定期的に病状や活動内容等について話し合ってきたが、段取りがわからない等とできないことが増え、最近では「書くこと」や「最後まで自分で成し遂げる」ことが思うようにならなくなってきた。Aさんは、出現してくる様々な症状から生きづらさと直面しながらも、前向きにできることを見据えて続けていこうという意志は強かった。反面、そのような気持ちであっても現実のこととしてできないことにぶつかることはつらく、「自分だけでは何ともできない。」と話すこともあった。

##### 【この事例で課題と感じている点】

活動中に続けてきた「字を書く」ということができにくくなってきているが、負担少なく書くことが続けられる工夫は何か。

物事の計画性や順序立てなどができない実行機能障害に直面しているAさんに対しての声のかけ方や伝え方、その時のテンポなどについて見直す必要はないか。

##### ・ <キーワード>

字が真っ黒に見える。 一瞬に消える。 つながらない。 さっきしてたことがなくなる。

##### ・ <事例概要>

【年齢】 50代半ば

【性別】 男性

【職歴】 電気工事関係

【家族構成】 妻、子供2人

【認知機能】 MMSE17点

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 特になし

【現病】 アルツハイマー型認知症

【服用薬】 アリセプト

【コミュニケーション能力】 言葉がでにくくなっているが、意思疎通は可能。

【性格・気質】 明るい。人と話すことを好む。何事も前向き。

【ADL】 失行、失認があるため、食事、排泄、入浴、更衣など一部介助が必要。

歩行も自立であるが速度はゆっくり。

【障害老人自立度】 J2

【生きがい・趣味】 犬が大好き。家族みんなが元気で幸せでいてくれることが自分の生きがい。

【生活歴】 学校卒業後会社勤めをしていたが、結婚を機に妻の家族と同居し家業を継ぐ。学生時代は陸上部に所属し、中距離が得意で大会などへの出場経験もあったという。家業は景気に左右されるものの、なじみの顧客を守りながら続けていた。6年ほど前の春頃から用件を忘れるなどの変化に気付いた妻が受診をすすめ、精査の結果、アルツハイマー病と診断された。

【人間関係】 他の利用者やスタッフとも関係は良い。

【本人の意向】 文字を書くことに対して「今はまだ書き続けたい。」

物事を順序立てて行うことに対して「最後まで成し遂げたい。」

【事例の発生場所】 通所事業所